

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 平成25年度地域別研修仏語圏アフリカ理数科分野における教授法/教科指導法改善研修

(英文) Improvement of Pedagogy for Science and Mathematics Education for Francophone Countries in Africa

(2) 研修期間 平成26年1月20日～平成26年2月14日

(3) 研修員数 17人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 小澤 大成

2. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

案件目標：

研修員が所属する組織において、理数科分野の教員の授業改善のための行動計画案が共有される。

指標：

研修員が本邦研修終了時に提出する改善計画案がチェックシートにより一定レベルに達成しているか確認される。また、研修員の帰国後3ヶ月以内に鼓動計画案が所属組織の中で発表され、それに対する関係者の意見や組織の見解をまとめた最終報告書が所属組織よりJICAに提出される。

(2) 単元目標（アウトプット）

単元目標①：

各国の教員研修に係る課題が整理される。

指標：

研修員が研修中に作成した改善計画案の「課題」とその「問題点」に関する記述が4段階評価がB（やや優れている）以上。

単元目標②：

理数科の授業を観察分析し改善提案を行う手法について説明できる。

指標：

研修員が研修中に作成した改善計画案の「研修を通して学んだ知識・経験」「自分の部署・自国で実施できそうな対策」の記述の4段階評価がB（やや優れている）以上。

単元目標③：

理数科の授業を立案・実施・改善するための手法について説明できる。

指標：

研修員が研修中に作成した改善計画案の「研修を通して学んだ知識・経験」「自分の部署・自国で実施できそうな対策」の記述の4段階評価がB（やや優れている）以上。

単元目標④：

研現職教員校内研修のシステムと事例から、具体的な改善計画案が作成される。

指標：

研修員が作成した改善計画案の記述をチェックシートを用いて評価し、その4段階評価がB（やや優れている）以上。